

第6学年 道徳学習指導案

1 主題名 大切な家族6学年4－(5) 家族愛

資料名 「9日ぶり救助 屋根から決死の救助要請 孫が救った祖母の命」 (産経ニュース)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「かけがえのない家族のために自分には何ができるのかを考えて、家族を大切にしよう」とすることを主なねらいとしている。

家族は生活を営む基盤となる人間関係である。それを支えているのが、相互の信頼と敬愛に裏づけられた家族愛である。最近の家族の様子は核家族化、共働きや単身赴任など様々に変化してきているが、どんな状況にあったとしても、家族の心の結びつきは変わるものではない。しかし、現在の家庭においては、家族の幸せのために何かする場面が減ってきたように思われる。

そこで、家族が相互に信頼関係と強い絆で結ばれていることについて考えを深め、家族のために積極的に役に立とうとする心情を育てることは大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、日頃の会話や生活経験から、自分自身が家族から愛されていることを理解しており、お手伝いなどをしている児童も多い。しかし、家族の愛情を疎ましく思う気持ちも芽生え始め、時には反発を抱くようなこともある。また、言われたことはきちんとやるが、自分で考えて大切な家族のために進んで役に立とうとしている子どもは少ない。

そこで、中学校に向けてもう一度、自分と家族との関係をじっくりと考えさせ、家族を大切にしようとする心情を育てることは大変有意義だと考える。

- 本資料は、主人公Aさんが、自分も被災しながらも、おばあちゃんを助けたいという思いから、必死に生き延び9日ぶりに無事救助されるという内容である。おばあちゃんのことを思い、必死に助けようとするAさんの行動を通して、家族を大切にしようとする心情を育てたい。

本指導にあたっては、資料「9日ぶりに救助 屋根からの決死の救助活動 孫が救った祖母の命」を活用し、主人公であるAさんの気持ちを共感的に理解させながら、かけがえのない家族のために自分ができることを考え、家族を大切にしようとするねらいに迫っていきたい。

導入段階では、東日本大震災の実際の映像を提示し資料への導入を図る。

展開前段では、倒壊した家屋の中で、身動きとれなくて動けないおばあちゃんの姿を見ながら、Aさんがどんなことを考えたのかを考えさせる。次に、屋根にはい上がって助けを呼ぶとき、どんな気持ちで助けを呼んでいたのかを考えさせる。最後に、おばあちゃんも無事に助かったことを知ったときのAさんの気持ちについて考える。

展開後段では、家族がいてくれてよかった経験を振り返り、価値を内面的に自覚できるようにする。

終末では、事前にも書いていただいた家族からの手紙を読ませ、家族から愛されていることを再確認すると同時に、自分の家族に対する思いを深めることで今後の生活での価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

「かけがいのないおばあちゃんを助けて共に生きたい」という強い気持ちを共感的に捉えることを通して、家族を大切にしようとする態度を育てる。


4 準備 資料「9日ぶり救助 屋根から決死の救助要請 孫が救った祖母の命」、挿絵、
道徳ノート、プロジェクター

5 展開

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	1 東日本大震災の映像を見て思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・こんなにも被害が大きかったのか。 ・大切な人が津波で流された。 ・家族はどうしているか。 	○ 資料への導入を図るために、震災の映像を見せる。
展開前段	2 資料「9日ぶり救助 屋根から決死の救助要請 孫が救った祖母の命」を読み、Aさんの気持ちについて話し合う。 (1)身動きできないおばあちゃんの姿を見ているときのAさんの気持ちについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・このまま誰も助けに来てくれなかったら。 ・不安でたまらないけど、ぼくがしっかりしなくちゃ、一人じゃないんだから。 ・死にたくない。ぜったい生きるぞ。 ・ぼくがおばあちゃんを助けるぞ。 (2)屋根にはい上がって助けを呼ぶときのAさんの気持ちについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・誰か助けて、お願い、気付いてくれ。 ・おばあちゃん、もうすぐで助けが来るからね。 ・できる限りの声を出しておばあちゃんの命だけでも救ってほしい。 (3)おばあちゃんも無事に助かったことを知ったときのAさんの気持ちについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・僕だけじゃなく、おばあちゃんも助かって本当によかった。 ・諦めずに頑張ってよかった。 	○ Aさんの置かれている状況を把握させるために、挿絵を提示する。 ○ おばあちゃんへの思いに迫らせるために、おばあちゃんのことを思って行動しているところに着目させる。 ○ 自分の命と同じくらい大事に思うAさんの行動のすごさに迫らせるために、Aさんの状況を挿絵で説明してから、道徳ノートに書かせる。 ○ おばあちゃんを大切に思うAさんの気持ちに迫らせるために、おばあちゃんが救助されている写真を提示する。
展開後段	3 自分の生活を振り返る。 家族がいてくれてよかった経験を想起する。	○ 経験を具体的に振り返らせるために、家族に大事にされていることや自分が大事にしていることを考えさせる。
終末	4 家族からの手紙を読む。	○ 家族からの手紙を読ませることで、改めて家族の大切さに気付かせると共に、余韻をもって終わらせるようにする。

5 板書計画

二〇一一年三月十一日
東日本大震災
宮城県石巻市



九日ぶり救助 屋根から決死の救助要請 孫が救った祖母の命

家の中にある台所にできた小さな空間
冷蔵庫の中の物を分け合って食べた
身動きできないおばあちゃんの姿を見て


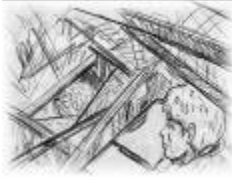
最低気温が氷点下という寒さ
三日後毛布で暖を取り始めた

九日後

屋根にはい上がって助けを呼ぶ任

このまま誰も助けに来てくれなかったらどうしよう。
不安でたまらないけど、ぼくがしっかりしなくちゃ。
死にたくない。ぜったい生きるぞ。
ぼくがおばあちゃんを助けるぞ。

誰か、お願い、気付いてくれ。
おばあちゃん、もう少しで助けが来るからね。
できる限りの声を出して、おばあちゃんの命だけでも救ってほしい。

おばあちゃんも無事に助かったことを知った任

おばあちゃん、ぼくたち助かったよ。
おばあちゃん、ぼくの命が助かって本当によかった。

かけがえのない おばあちゃん
かけがえのない 家族

自分の生活を振り返って

家族がいてくれてよかったな

6 道徳ノート

道徳ノート
六年 名前 ()

「九日ぶり救助 屋根から決死の救助要請 孫が救った祖母の命」

助けを呼んでいるときの気持ち

自分の生活を振り返って

